

子ども時代の謎

100年ほど前、日本は鉄道敷設ブームでした。地元、大阪府箕面（みのお）の阪急電鉄は、今年が開業110周年。前身は小林一三が設立した箕面有馬電気軌道（箕面電車）です。開業と同時に、箕面動物園が開業、池田市で住宅地分譲（月賦販売方式を採用）、翌年に宝塚新温泉を開業し、鉄道とデイベロッパーを一体とした私鉄経営を行い、「阪急文化圏」を作っていきます。マルーン色（小豆色など

と言われています）の電車には、沿線住民の記憶も乗っています。

箕面郷土資料館で「阪急電車と箕面」という企画展が開催されています。個人所蔵のポスターやチラシなどが展示され、当時の雰囲気

を感じることができます。知らないことだらけです。

①開業当時、箕面駅はラケット型の軌道。それを一周して方向転換をする。途中に降車場所、乗車場所がある。ラケットの面に相当する場所は、現在の駅前広場になっている。

②日本で最初の珈琲店「カフェ・パウリスタ」が駅前に開業。ブラジルの豆を日本に紹介。

③沿線情報誌『山容水態』が発刊され、「住宅問答」「売家」「貸家」などの情報を掲載している。

④住宅地の宣伝には、畑を耕す父親と娘が描かれている（当時の中流階層の理想の住宅地のイメージだったのでしょう）。等々。

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲部分的に道幅が広がっている桜井駅前の道路

なかでも興味深かったのは、桜井駅前の道路の話です。西国街道が線路に沿って駅前を通りますが、駅から東の500メートルほどの間だけ、道幅が広いのです。街道では車がすれ違うのに苦勞をしますが、駅から東は片側1車線の歩道付きです（写真参照）。しかも、東端の踏切を越えると再び道幅が狭くなります。なぜ、駅から踏切までだけ、道路幅が広いのかは、子ども時代の謎でした。

今回の展示で、それが軌道跡だと知りました。当時の軌道電車は、路線の一部を道路と併用するという条例に合わせる必要がありました。そのため、この部分だけ道路併用の軌道にしたとのこと。その後、線路を付け替え、軌道跡だけが道路として残ったとのこと。謎の答は、「規制逃れ」だったわけです。

ある時代に人びとが行った努力は、なんらかの痕跡を残します。パンデミックを回避するための今の生活も、新しい暮らし方、働き方として、痕跡を残すことでしょう。100年先の人びとに、「謎」と思ってもらえる痕跡が残れば楽しいですね。

（MBO 実践支援センター代表）